

第5回フラッグシップ輸出産地に関する有識者会議

主な意見

○農畜産物のフラッグシップ輸出産地のメリット措置について

- 省内横断的に関係部署と調整した上で、提言一つ一つに予算や支援措置がまとめられている。
- 特に提言の2番目のサプライチェーンの確保は、海外商流をしっかり持つ商社が仲介して、産地と結び付けることが輸出拡大には重要だと考えている。継続的に輸出できる大変理想的なスキームだと思うので、今後サプライチェーンの構築の予算については、拡大してほしい。

○フラッグシップ輸出産地への林産物・水産物の追加について

- 政府目標である2兆円、5兆円を視野に入れると稼ぎ頭でもある水産物は単価が高いので、品目として追加することは問題ない。一方、今後の話になると思うが、1年間ALPS処理水の対応をしてきた中で、水産物の産地をどのように認定していくかには関心を持っており、今後の議論をしっかり捉えたい。
- ホタテの件で昨年、東北・北海道を回って漁協と意見交換をしたが、海水温の変化が激しく獲れる品種が変化していることが分かった。ホタテを諦めて牡蠣に変更したものの獲れないこともあり、海枯れの懸念があると感じている。水産物の対象の品目としては養殖魚が主になると思うが、どの品目に焦点を当てるかが重要だと感じている。
- 林産物・水産物の追加については了承。

○農畜産物のフラッグシップ輸出産地の第2回募集について

- メリット措置にフォーカスしつつ、新たな産地に応募を働きかけていきたい。
- 産品として加工品の輸出を手掛けているものについては、対象品目に追加されるよう検討していただきたい。当然対象品目の選定基準については、一次産品の基準とは異なるものとなり、別途基準の選定が必要となると思われるが、輸出額の目標額には加工品を含めて計上しているので、輸出を促進する上でも検討いただきたい。
- 輸出に係る海外のプラスチック規制等の情報共有が不足していて、産地側の生産体制や有機に関する取組の着手が後手に回っている。二番手、三番手の事業者が認定されるような体制づくりができれば、産地が拡大していくと思う。

- 複数プレイヤーが連携して、どこか特定の産地を定めて積極的な声がけを行い、サプライチェーン事業等を含めた具体的な提案をしていきたい。
- 第1回募集時はメリット措置が曖昧だったため、第2回の募集に向けて産地を誘導していきたい。
- 第2回募集については了承。

以上